

【当院における LDG の短期成績と長期成績の検討】

研究の概要：

本研究では、早期胃癌で腹腔鏡下幽門側胃切除術をうけられた患者さんの短期成績、長期成績を評価して、合併症や既往症、年齢、性別、喫煙有無などが術後経過、治療内容に及ぼす影響を検討することを目的としています。

研究対象：

2007年10月～2021年10月の間に、相澤病院外科にて、胃癌の診断で腹腔鏡下幽門側胃切除術を行った、患者さんの診療録を対象とします。

研究の意義：

早期胃癌患者さんに対する腹腔鏡下幽門側胃切除術は、標準治療の一つになりました。多くの胃癌患者が、低侵襲手術を受けられるようになった一方で、手技の煩雑さや症例数の偏りのため、施設によって治療成績にバラツキがみられるという現状があります。当院での治療成績を検討し、その課題を明らかにすることは、臨床上の判断に有用であると考えられます。

研究の目的：

本研究は、当院外科で腹腔鏡下幽門側胃切除術を行った患者さんの長期成績、短期成績を検討し、患者さんの臨床病理学的特徴が、合併症の発生頻度や予後に及ぼす影響について検証することを目的としています。

研究の方法および内容：

相澤病院の診療録データベースを利用して、診療録より必要な情報(患者背景、臨床経過、手術所見、術後経過)を収集し、統計学的な解析を行います。情報収集の作業に当たっては担当者がこれを行います。

個人情報に関する配慮：

人体から採取された試料ではなく、診療録を主とした既存資料を研究に用います。閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されない方法で情報を収集します。対象となる患者さんの識別は本研究専用に別途割り振られた研究番号を使って管理し、個人情報が院外に出ることはありません。患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申し出てください。

研究責任者〒390-8510 長野県松本市本庄2-5-1

社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院 外科センター 亀山亭

TEL 0263-33-8600 / FAX 0263-32-6763